

会議録

会議の名称	平成 25 年度第 3 回西東京市子ども子育て審議会
開催日時	平成 26 年 1 月 16 日（木曜日）午後 3 時から
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 503 会議室
出席者	委員：森田会長、古川副会長、網干委員、金子委員、小林委員、武田委員、中村委員、西澤委員、丸木委員、三浦委員、吉田委員、安部専門委員、上田専門委員 事務局：子育て支援部長 金谷、子育て支援課長 中尾根、保育課長 神谷、児童青少年課長 横山、子ども家庭支援センター長 磯崎、子育て支援課調整係 阿久津、田中、倉田 欠席者：大沼委員、加藤委員、小牧委員、谷津委員、横山委員
議題	1 議題 (1)西東京市学童クラブ事業の運営について (2)西東京市保育所入所選考基準について (3)次期「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の策定について 1.ニーズ調査の結果について（報告） 2.量の見込みと区域設定について（報告） 3.専門部会からの報告 ・幅広く意見を聴くためのヒアリングについて 4.西東京市子育て支援計画進捗状況について（報告） 2 その他
会議資料の名称	（西東京市学童クラブ事業の運営に関する資料） 資料 1 答申案 資料 2 答申案への意見一覧 （西東京市保育所入所選考基準に関する資料） 資料 3 西東京市保育所入所選考基準の改定案 資料 4 保育所入所選考基準（改定案）の対象となる方の状況等 資料 5 保育所入所実施基準の改定に関するモデルケース （次期「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の策定に関する資料） 資料 6 ニーズ調査の実施結果 資料 7 西東京市子育て支援ニーズ調査結果報告書（未定稿） 資料 8 事業量の見込と区域設定 （当日配布資料）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングの検討状況（専門部会からの報告） ・西東京市子育て支援計画進捗状況調査へのご意見
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・審議</p> <p>1 西東京市学童クラブ事業の運営について （事務局が資料に沿って説明）</p> <p>森田会長： この答申案は今日が最終確認となる。皆さんからのご意見は最大限盛り込んでいる。これでよろしいか。</p> <p>（異論なし）</p> <p>森田会長： それでは、これを最終的な答申として確定する。</p> <p>2 西東京市保育所入所選考基準について （諮問） （事務局が資料に沿って説明）</p> <p>森田会長： 分からないことがあったら審議の中でご質問いただければと思う。入所選考基準の改定をこの時期に行うことの是非についても、ご意見を頂きたい。問題が起きたら、緊急に対応していくのがこの審議会の重要な役割であるが、今、事務局から説明があったとおり、指数や要件が少し違うだけで入所の順位が大きく変わることになり、非常に大変な議論である。今までも入所基準について見直したことはあるが、その際には、何度も議論を重ね、その影響をしっかりと検討した上で変更を行ってきた。今回のこの改定案は、2月の審査の際に適用したいとのことなので、今回だけの審議で結論を出さなければならない。この4月から、基準の抜本的な見直しを行うことが決まっている中、これを今ここで審議するのか、あるいは、緊急性は十分に考慮しながらも次年度の抜本的な改革の中で総合的な判断をしていくのかについてまず議論しないと、この審議は進めることができないと思う。</p> <p>また、住居を固定して仕事を選ぶか、勤務先に合わせて住居を選ぶかによるリスクや、市外の企業内保育室に預けるということについても議論が必要となる。例えば、市内の企業内保育に預けている方は、1点の加点は得られないということになるし、市外に転居されると、その自治体の基準によっては不利になるかもしれない。この点についても、今回審議するか、</p>	

今後の課題とするかなど、議論できればと思う。

一番大きい問題は、西東京市の入所の数が少ないということである。先ほど、待機児数が4番目とあったが、就学前の保育施設整備率は東京都で最下位に近いというのが実情である。その点については、抜本的な問題として次年度以降に議論したいと思っている。

網干委員：

2月に適用するものを今変えるというのは、やはり難しいのではないか。要件が変わると、入れる人と入れない人が短期間で大きく変わることになる。そういうことは避けたほうがいいと思う。新年度に議論ができるのであれば、そこまでは現行のままの方がいいと思う。

吉田委員：

資料4の裏面の「多胎児に関する加点項目の導入状況」について、23区ではかなり高い導入率となっているが、多胎児については育児が大変であるとの声が多く、もし改善できれば、助かる人がいるだろうと思う。その辺りについて、保育園の実情を伺いたい。

森田会長：

改定によって入れる人が出てくるということは、入れなくなる人も出てくるということになる。そういうことも踏まえて、この時期に基準を変えてもいいと考えられるか。例えば、大学の入学基準の場合は、5月くらいから入学の広報を始めるが、その広報後に年の途中で変えることはしない。このような例からしても、今回の改定については、きちんと議論しなければならぬと考えている。

安部専門委員：

指数は、入所の申込段階で公表されているのか。

森田会長：

もちろん、公表されている。

安部専門委員：

もう入所の申込みは終わっているので、申込みをした方は現行の基準しか知らないと思うが、変えることになった場合、その辺りの説明責任はどうなるのか。

○事務局：

この改定については、前回の審議会で報告という形で提示したが、審議が必要という御意見を頂戴したことから、本日、諮問の上、審議事項とさせていただいた。この改定の動きについては、入所希望者に配布した申込案内の中で、現在検討中として載せている。

丸木委員：

私も、拙速に決められないデリケートな問題だと思うので、今日だけの議論で決めるという気持ちにはなれない。

また、現在、市外の企業に勤めていて、その施設に預けている方が、どういう事情でそこに預けているのかといった実態も、今日の話だけでは分からない。そういう点からも、今日、ここで決めるのは厳しいと思う。

古川副会長：

いろいろなことを考えて入所申込に至るわけで、先ほど会長が言われたように、家と職場のどちらに軸足を置くかといったことや、企業内に預けられる方、そのような設備のない企業にお勤めの方もおられる。働き方もさまざまな形があり、簡単に数字にできない部分が多々ある。また、今回のニーズ調査の結果もこの議論とリンクさせていくべきで、子育てに関して市民がどんなことを考えているのかと照らし合わせながら、審議を煮詰めていくべきである。そのように考えていくと、今回の改定案だけを基準全体から切り取って、今日決めてしまうというのは、早急過ぎるように感じる。

三浦委員：

私も入所の選定を受けて子ども2人を保育園に入れているが、多胎児の話と企業内保育所の話は別のように思う。多胎児については確かに大変だろうと思う。企業内保育については、多くが認証保育所に預けることになるため、現在でも、会社に復帰するために、妊娠した時点から、自分の家から企業までの間にあるあらゆる認証保育所を探して予約をしているような切実な状況がある。この改定では、いったん市外に預けた方が次は有利になるので、翌年から市内の保育所にプラス加点で入れることを目指して、とりあえず市外のあちこちの保育所に多数の予約をとる親が一層増えるのではないかと危惧する。

一方、市内の保育園の一部が、0歳児の受け入れを減らして、1歳児の枠を増やすというお知らせを保育園から頂いたが、これは今のこの加点の話と逆行しているように感じる。また、それは審議会を通さずにやっていいのかという疑問もある。

森田会長：

この審議会は今まで入所基準や入園料についての審議を行ってきたが、今言われたように、今後、整備や入所枠や入所の選考などまで扱うかなど、審議会の守備範囲についても議論し、きちんと整理しなければいけないと思っている。

多胎児については早く対応できればというご意見もあったが、この問題ももう少しきちんと議論する必要があると思う。具体的には、年子はどうするかという問題がある。兄弟姉妹については、考慮すべきではないという自治体も出てきている。なぜなら、兄弟姉妹に加

点をすると、いったん保育所に入れた人は、続けて3人・4人と産めるけれども、入れない人は1人のままで終わってしまうというケースを引き起こすからである。そういうことを考えると、この改定案は簡単には結論が出せないと思う。

今日決めるべきではないという意見が多いが、この諮問は、いったん取り下げさせていただくということは可能か。

○事務局：

今までのご審議では、時間をかけて議論を重ねるべきというご意見ですので、この諮問はいったん取下げさせていただき、あらためて新年度に諮問しまして、ご審議いただくこととしたい。

森田会長

それでは、諮問はいったん取下げとし、次年度、抜本的に入所基準を見直す時に、今の問題も含めて議論するという形で進めることとしたい。

3 次期「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の策定について

1. ニーズ調査の結果について（報告）

（事務局が資料に沿って説明）

森田会長：

この調査結果について、さらにクロス集計することは可能か。

○事務局：

可能である。

森田会長：

どのようなクロス集計を行ってほしいという要望は、いつまでに出せばよいか。報告書に載せられる期限と、今後の計画に使っていくデータとしての期限を教えてください。

○事務局：

報告書については必要最低限を載せる予定である。ワイワイプランの策定の議論の中で必要と思われるデータがあれば、その都度、個別にクロス集計し、審議会の資料として出していきたいと考えている。

森田会長：

例えば、回答者が少ない方を主として書いたコメントと、多い方を主として書いたコメン

トでは、与える印象がかなり変わってくる。また、このようなコメントは不適切であるといったご意見もあると思うが、そのような内容に関する意見や質問はいつまでに出せばいいか。

○事務局：

2週間後くらいまでに頂けば修正が可能である。

森田会長：

月末くらいまでということでもいいか。

○事務局：

それで結構である。

森田会長：

では、お気づきになった点があれば、月末までに事務局までご意見を頂ければと思う。

今の話の流れから考えると、順序として、2.よりも3.の「専門部会からの報告」を先にした方がいいと思うので、3.の説明をお願いしたい。

3. 専門部会からの報告

- ・幅広く意見を聴くためのヒアリングについて
(事務局が資料に沿って説明)

森田会長：

このヒアリングの内容は、評価と絡んでくると思う。現在、ワイワイプランが進められている中で、課題が既にある程度見えてきている。そのことを含めて、今回のニーズ調査でカバーできていない対象者や課題について、ヒアリングで補強しながら、今後進んでいくということである。ご意見等はあるか。

古川副会長：

幼稚園の利用者が増えていることについて、どうお考えか。

網干委員：

パートで勤めるお母さんたちが増えているというのが1つの原因だと思う。保育園に入れないから、幼稚園でなんとかしていきたいという保護者も増えている。また、保育園に入れないから仕方なくではなく、幼稚園に行かせたいから、なんとか預かり保育でやっていけないかと考える保護者も出てきている。幼稚園でも、働いている人の子どもも受け入れている

ということについては、まだ知らない保護者が多いというのも事実である。

森田会長：

全国的には保育園のニーズの方が増えているので、これは西東京市の固有の状況ではないかと思う。

武田委員：

絶対量の問題だと思う。入所を希望する人と、受け入れの人数の問題が根底にある。幼稚園で預かり保育をしているということは、だいぶ浸透してきたように思うので、そちらで充足されてきているという感じを受ける。

森田会長：

10年くらい前に、この審議会と小平市の保育のサービスの状況を見る機会があったが、その頃は、小平市は幼稚園が中心で保育所が少なく、西東京市は保育所が中心で幼稚園が少なかった。その割合がこの10年間で逆転しているように思う。

網干委員：

小平市は、認定こども園と、幼稚園での預かり保育事業に対する補助金を増やしたと聞いている。幼稚園が充実したとも言えるが、幼稚園も保育所も変わらなくなってきたということでもあるのではないかと思う。

森田会長：

保育のあり方が近隣の所でも変化してきている。その辺の実態も含めて、ここで何をしなければいけないかをしっかり押さえていかなければならないと思う。

もう1つ、23区の状況と異なっていると感じるのは、西東京市はフルタイム率が少ないということである。つまり、会社を辞めた方が結構いるということで、これは全体の市の税収から見ても望ましくないと思うので、この辺りのことはもう少しきちんとデータを整理して、西東京市に対する働いている親たちの貢献度をはっきり出さなければならぬと思っている。例えば17ページのデータで、「父母いずれかが在宅」の割合が非常に多いが、それは、短時間の保育でいいということなのか、あるいは、本当は長時間の保育が必要なのかなど、もう少しきちんとデータを吟味して整理する必要があると思う。

ちょうど、今日、保育所の最低の保育時間の議論が国でまとまったようだが、そういうことも含めて、全体として今後の保育のあり方を考えていく必要があると思った。

網干委員：

23区と西東京市では異なると言われたが、23区と市部では状況が全く違う。実際、市部

では、子どもがある程度高学年になるまではパートタイマーでいいと思っている人が多い傾向がある。大企業で働くとなると、23区の人には通勤できるけれども、市部の人たちは通勤しづらい。そこで、自分の住んでいる所の近くで働いたり、パートタイマーで働くというような考えになっているのではないかと思う。

武田委員：

働き続けられるかどうかは、環境の問題もある。ここに住んでお母さんがフルタイムで働くのは、通勤時間も含め、かなりハードである。もう少し都心から遠ければ断念せざるを得ないが、西東京市というのは、難しい選択を迫られる立地条件だと思う。そういう中で、短時間勤務に切り替えざるを得ない人が多いのではないかと思う。

森田会長：

子育て支援センターの整備を望む意見が非常に強くなってきている。そういうことも含めて、今後、市の資源をどこにどのように有効的に使っていくのか、また、西東京市らしい子育て支援についても、ぜひ議論していきたいと思っている。

2. 量の見込みと区域設定について（報告）

4. 西東京市子育て支援計画進捗状況について（報告）

（事務局が資料に沿って説明）

森田会長：

国が期待しているのは量であるが、西東京市の子育て家庭や子どもたちの実態をきちんと把握して、課題に対しては対策を立て、良いことはどう伸ばすかを考えていかなければいけない。どうしても国の方向性に目がいきがちだが、西東京市の中にきちんと目を向けて議論をしていきたいと思っている。

3 その他

（事務局が認定こども園の普及・促進について報告）

網干委員：

幼稚園は、今、ものすごく混乱している。私たちも、今の時代、働いている人を応援していきたいと思っているし、それが幼稚園にも求められているのは分かっている。実際、預かり保育を積極的に行う幼稚園が増えてきているが、補助金がない中で、人を雇うのも難しいというのが現状である。そういう状況で、まだ制度も決まっていないうちに幼稚園のまま新制度を迎えるのか、認定こども園に移行するのか、施設型の給付を受けるのかを比べと言われても、非常に厳しいものがある。できれば、制度が決まってから1年間、猶予が欲しいと

いうことを国や都に伝えたいよう、市にお願いをしている。そのような実態を審議会の皆さんにもご理解いただけるとありがたい。

○事務局：

今後の審議会の日程については、国からの量の見込みの算出方法等がまだ提示されていないため、当初の予定を変更し、2月に専門部会、3月に審議会を行う形にしたいと考えている。なお、3月は市議会が開催中のため、土曜日・日曜日・祝日を含めて調整をさせていただきたいと思っている。

また、東京都への報告も、当初は3月までとなっていたが、それも延びる可能性がある。そうすると、3月中に審議会を開催する必要もなくなるが、一応は3月中に報告するものとして準備させていただきたいと思っている。

○事務局：

本日は欠席された加藤委員からメールで質問が寄せられていましたが、その内容は審議の中での三浦委員のご意見と同様のものであったことを、報告させていただく。

森田会長：

それでは、今回の審議会は、以上で終了とする。